

平成30年度第2回学校評議員会の実施報告書

		学校名
岐阜県立可茂特別支援学校	校長	田口 正芳
	所在地	美濃加茂市牧野 2007-1 電話 0574-28-3150

- 1 会議の名称 岐阜県立可茂特別支援学校 学校評議員会
- 2 会議の構成
委員 板津幹彦 NPO 法人プラス・ワン理事
大脇房夫 レストラン・リリアーヌ経営
生田靖子 可児市発達支援センターくれよん所長
水谷 敬 元公立学校校長
早川泰則 下米田地区自治会会長

学 校 田口正芳 校長
小林八智子 P T A会長
大前幸弘 事務部長
石原和寿 教頭
広井隆司 小学部主事
社本教恵 中学部主事
野々村健 高等部主事
吉村智典 高等部主事
後藤明美 教務主任
- 3 会議の目的 学校運営等について地域住民や保護者から幅広く意見を求め、教育活動の活性化につなげるとともに、地域に開かれた学校づくりを推進する。
- 4 会議の開催 平成31年2月20日(水) 9:30~11:10
可茂特別支援学校 会議室
- 5 会議の概要
校長挨拶
 - ・コミュニティスクール(学校運営協議会)を本校でも実施する可能性がある。
学校評議員会から学校運営協議会に変わること、より地域の方の意見を学校に反映することになる。来年度は高等学校10校が新たに実施する。特別支援学校では、岐阜清流高等特別支援学校1校のみが実施している。
 - ・本日は、今年度の実践の成果を報告させていただき、色々なご意見をお伺いしたい。

(1) 各学部の活動報告 各部主事より

- ・各部主事が学部の活動についてパワーポイントを使った資料により児童生徒の活動の様子と成果を報告した。
- ・学校評議員からのご意見

委員A：防災備蓄には保存期間があるが、確認しているのか。

回 答：長期休み前には、自宅に持ち帰り交換してもらっている。

委員A：児童生徒によって食べるものが異なるので、安全に対応できるのかを、3食備蓄食料を食べて検証すべきである。

頭で考えていることと実際は異なることが多い。その距離を縮める必要がある。

災害時には可茂特別支援学校は福祉避難所になる。一般の避難者は校舎内に入れられない方がよい。外でテント等で過ごしてもらうなどの配慮が必要である。

委員B：近隣の学校との交流をすることは大切である。社会人になって交流することがある。

就職率が以前よりも大変高くなっている。企業に生徒ができることをアピールして、仕事の範囲を広げていくことが大切である。複雑な仕事と、単純な仕事を区別するなど、自由な仕組みづくりをする必要がある。

委員C：以前に療育に通っていた児童の成長を見ることができた。ICT機器の活用で児童生徒の活動が広がっている。

委員D：下米田地区では、断水の経験から防災意識が高まっている。水の確保と下水処理について下米田地区では重要課題である。学校はどうしているか。

回 答：土日を挟んでいたのでも、何とか乗り切ることができた。下水処理はプールの水で対応するつもりであったが、学校には貯水タンクがあるので対応できた。

回 答：災害対策については、牧野地区の検討事項としてあげていきたい。

(2) 学校評価の結果報告 教頭より

- ・学校の教育方針や指導内容に共感できる、家庭との連携、児童生徒と教員の信頼関係、教員が礼儀正しく親切で親しみがもてる、児童生徒が生き生きと楽しそうであるというような項目は評価が高い。
- ・児童生徒の安全に気を配り、緊急時の対応が適切であるという項目は評価が高い。
- ・学校での体罰防止、いじめや差別を許さないという項目では「わからない」が他の項目に比べて高い。校内で対応しているため、問題が表に出にくく、話題にしにくい面も多く、保護者に情報提供しにくい。どう、保護者の理解を求めていくかが課題と考える。
- ・小学部は全体的に高い評価。特に教職員に対しての項目は評価が高い。
- ・中学部は体罰やいじめ、教職員の礼儀正しさの項目は評価が高い。
- ・高等部は全体的に厳しい評価であるが、安全配慮、緊急時の対応に関する項目では学部間で最も高い評価を得た。
- ・全体的には、昨年度同様の評価である。安全面や緊急時の対応の項目は評価が

高い。

- ・低い評価の項目に関しては、保護者の期待と捉えて早期に対応していく。

(2) -2 職員の勤務状況について

(ア) 年齢、性別構成

- ・139名の教職員の内、男性49名、女性90名。
- ・20代の教職員の割合が35%と高く、50代の割合が15%と偏りがある。
- ・小学部は40代女性、中学部は20代女性が多い。高等部はバランスがよい。

(イ) 特支免許保有率

- ・特別支援学校免許の保有率は、教諭78.7%、講師27%。全体は60.6%である。
- ・アンケート結果からも、若い教職員が多く、免許保有率が低いことから、「専門的知識が豊富」「授業内容が児童生徒の実態に合っている」の項目は評価が低い。

(ウ) 安全衛生管理

- ・喫煙者は15名。内20代が8名。
- ・インフルエンザ予防接種率は82%と高くなっている。児童生徒と関わる上での意識が高い。

(エ) 教職員の交通事故

- ・今年度は13件ですべてが物損事故。(20代の物損事故が多い)

(オ) 年休取得率

- ・年代が上がることに取得率は高くなっており、年間17日～18日の取得ができている。

(カ) 残業時間

- ・年度初めの4、5月と11月、10月は残業時間が多くなっている。月あたりの残業時間の平均は40時間である。
- ・平均退勤時刻は、18時30分であり、平成28年度より早くなってきている。行事の見直しや精選により、業務の削減を進め、教職員へのワークライフバランスの意識啓発にも力を入れている。

(3) ご意見・ご提言

委員B：60歳以上の教職員が少ないのは、一般企業とは異なる。

回答：再任用制度が始まって間もないため、60代は3名である。今後は増えていくことになる。

委員B：60歳以上の方を有効に使っていくことが大切である。

4月から本校生徒1名を採用した。働くことにより流れができていますので、就職率5割を目指してほしい。

委員A：3年間の任期を無事終えることができ安心した。

地区の資源を活用し、児童生徒のためになるような授業を行ってほしい。

委員C：にこりん祭では、児童生徒が役割をもって活動していた。くれよんでは、相談支援を行っているの、本校に通う保護者から「誉められることで、できることが増え入学してよかった。」と聞いている。

委員D：配慮しなくてはいけないことも多く、大変な仕事であることが理解できた。

P会長：PTA会長となり学校に来ることも多くなった。児童生徒のために良くやっていたらと思っています。

校長閉会挨拶